



第3回後期定例会 質疑及び一般質問

令和5年11月29日、30日、12月4日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。
各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

11月29日(水)



大和 勲 自由民主党
(伊勢崎市)



▶横断歩道等の道路標示の新たな整備方法について

横断歩道等の塗り直し要望に早期に対応するため、本年11月から新たな契約方法を試験的に導入しているが、具体的な内容について伺いたい。

A 警察本部長

新たな契約方法は、あらかじめ入札により業者と単価を決定しておくことで、要望から工事完了までの期間を短縮するものである。要望から早く2週間後、遅くても1か月後までの工事完了を見込んでいる。現在、前橋市内と高崎市内に限定しているが、来年度から、県内全域で運用すべく準備を進めているところである。引き続き、交通安全施設整備に関する県民の要望に迅速に応えてまいりたい。

11月30日(木)



高井 俊一郎 自由民主党
(高崎市)



▶上信電鉄の官民共創について

上信電鉄の存続のためには、官民共創による新たな支援体制が必要だと思いがどうか。



A デジタルトランスフォーメーション推進監

上信電鉄の経営改善のために、官民一体となって新たな取組等を行うことは有意義であると考え。群馬県としては、国や沿線自治体と連携し、新たな補助制度や経営改善に有効な取組等について情報提供するとともに、国の補助金獲得に向けた伴走支援等を行ってきた。また、既存の協議会に、経営の専門家に顧問として加わっていただく等の対応について、沿線自治体と協議し、検討してまいりたい。

12月4日(月)



星名 建市 自由民主党
(渋川市)



▶住宅建築における県産木材利用の促進について

県産木材を利用した住宅建築への支援を強化し、継続的に実施すべきと思うが、現行制度の見直しについて県の考えを伺いたい。

A 森林局長

現行の「ぐんまゼロ宣言住宅促進事業」は、県産木材を使った環境性能の高い住宅の普及促進のため、令和3年度から実施している。令和4年度事業では、グループを構成するための支援の追加、令和5年度事業では、それまで補助対象外であった集成材、CLT^(※2)なども、県産木材を使用した場合は補助対象に追加する見直しを行ったところである。今後も事業の成果や課題を整理し、制度の運用方法の検討を行ってまいりたい。



加賀谷 富士子 リベラル群馬
(伊勢崎市)



▶猫の多頭飼育崩壊対策について

猫の多頭飼育崩壊が各地で問題となっているが、群馬県の取組について伺いたい。

A 健康福祉部長

県では、動物愛護、社会福祉、環境、住宅、警察などの行政関係者が参画する連絡会議を立ち上げ、多頭飼育崩壊の予防と解決に取り組んでいる。また、複合化した生活課題に関係者が連携して取り組む市町村の包括的支援体制づくりを推進する。こうした仕組みも活用し、引き続き、市町村や関係機関との連携を一層強化し、多頭飼育崩壊の予防や、早期解決に向けた体制整備に努めてまいりたい。



金子 渡 令明
(渋川市)



▶GunMaaS^(※1)の普及拡大における今後の取組について

デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、取組を進めていると認識しているが、今後のサービス展開について検討状況はどうか。

A デジタルトランスフォーメーション推進監

今後のサービス展開としては、使い易さ向上のための機能拡充のほか、交通以外の他の分野と連携したサービスの実装を進めていきたい。その一つとして、今年度は、教育分野との連携を進めている。現在、自家用車を持たない児童や生徒を対象にした「デマンド型の移動サービス」の導入に向け、フィールドとなる渋川市と連携し、環境構築に向けた調整を進めている。



清水 大樹 公明党
(高崎市)



▶インクルーシブ遊具の導入について

年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが使えるインクルーシブ遊具の導入について、県立都市公園における現状と考え方を伺いたい。

A 県土整備部長

インクルーシブ遊具は、障がいの有無や性別、年齢の違いなどにかかわらず、あらゆる人が平等に安心して利用できる遊具であるが、県土整備部が管理する都市公園には、現在設置されていない。遊具の更新や設置は、公園施設の長寿命化計画に基づき実施しており、インクルーシブ遊具の設置に当たっては、この計画に則った施設の更新時期に合わせ、関係者の意見を聴きながら検討してまいりたい。



松本 基志 自由民主党
(高崎市)



▶医療的ケア児等支援センターの状況について

センター設置から5か月が経過したが、これまでの取組状況について伺いたい。

A 健康福祉部長

今年6月末に、群馬県医療的ケア児等支援センター「やっほ」の呼称で開所した。現在、「相談支援」「家族支援」「人材育成と地域づくり」「調査分析と情報発信」の4つの取組を進めている。センター開所により、相談先がわからないという悩みをまずは受け止められる体制を確保したが、課題もあるため、引き続き、保護者等の相談に丁寧に対応し、さらなる支援の充実に取り組んでいきたい。



森 昌彦 自由民主党
(邑楽郡)



▶千代田町と熊谷市を結ぶ利根川新橋の架橋について

長年強く要望が出ていた利根川新橋が、建設に向けて加速してきた。現在の進捗状況と今後の事業の流れについて伺う。



A 県土整備部長

現在の進捗状況は、現地測量等について、入札による受注者選定に向けた手続きを進めているところである。受注者の決定後、現地調査に関する地元説明を行った上で、速やかに測量作業などを進めていきたい。今後の事業の流れとして、今年度、現地の測量調査を行った後、来年度以降、地域の声を計画に反映させるためのアンケート調査の実施や新橋を含む道路のルートを具体化するための設計等に着手する予定である。



井田 泉 自由民主党
(佐波郡)



▶柔軟な働き方の推進と選択的週休3日制の導入について

県職員の柔軟な働き方の推進とフレックスタイム制の活用による「選択的週休3日制」の導入について、知事の考えを伺いたい。

A 知事

フレックスタイム制を活用した、いわゆる「選択的週休3日制」は、多様で柔軟な働き方を進めていく上では非常に有効な制度で、さらなる生産性や創造性の向上に繋がると考える。群馬県では、令和6年度から知事部局全職員を対象とした試行を予定している。制度の効果検証や課題の洗い出しを行いながら、その後の本格運用に繋げていきたい。



松本 隆志 自由民主党
(館林市)



▶邑楽館林地域のポテンシャルについて

邑楽館林地域の可能性や今後に期待することについて知事の思いを伺いたい。

A 知事

邑楽館林地域の強みは東京圏に近いことであり、企業の進出先として大きな可能性があると考えている。今年5月には、利根川新橋の整備着手を決断し、地域経済の発展に大きな効果を発揮すると期待している。さらに、多文化共生・共創の先進的な取組が行われており、今後も期待している。この地域の魅力やポテンシャルを最大限に引き出し、市町村としっかり連携してまいりたい。



今井 俊哉 自由民主党
(太田市)



▶市町村との連携について

市町村との連携は山本県政におけるキーワードと心得る。市町村との連携について体制や知事の考えはどのようなものか。

A 知事

市町村との連携は、県政運営に当たり極めて重要だと考えている。そのため、市町村の地域課題解決や国庫金の獲得等について、市町村に寄り添った支援を行い、連携強化を図ってきた。県民の幸福度向上のためには、県と市町村とが相互に理解し合い、鍵となる施策を同じ方向を向いて進めていくことが重要である。築き上げてきた市町村との関係を大切に、今後もしっかりと連携してまいりたい。



狩野 浩志 自由民主党
(前橋市)



▶北朝鮮による拉致問題における県警察の捜査状況等について

県内には北朝鮮による拉致の可能性を排除できない方が3人いるが、どのような捜査・調査を行っているのか。

A 警察本部長

警察では、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案の、全国における871人について、捜査・調査を進めている。県警察においては、3人について、拉致の可能性を含め、あらゆる可能性を念頭にご家族や関係者の心情等に配慮しながら、警察庁を始め関係機関と緊密に連携を図り、所要の捜査・調査を継続している。今後ともご家族のご心情を踏まえた対応に努めて参りたい。

※1 GunMaaS…鉄道やバス、タクシーなど複数の交通手段を一括して、検索、予約、決済ができるスマートフォンアプリ。令和7年度県内全域の本格導入を予定

※2 CLT…「Cross Laminated Timber」の頭文字をとった言葉で、日本語では「直交集成板」と呼ぶ。繊維方向が直交するように、複数枚の木の板を重ねて貼り合わせて作った厚みのある板のこと